

6月30日、新潟県・6月県議会において、帆刈謙治は次に掲げる行政課題について質問を行いました。

- 1、新総合計画と人口問題について
- 2、地場産業の活性化策について
- 3、公共事業と県民の安心・安全について
- 4、農業政策について

今月号は、「1、新総合計画と人口問題について」お知らせします。

## 「質問要約」

人口減少は重要な課題であり、その対策について、新総合計画にどのよう位置付けているものか、その所見を伺う。

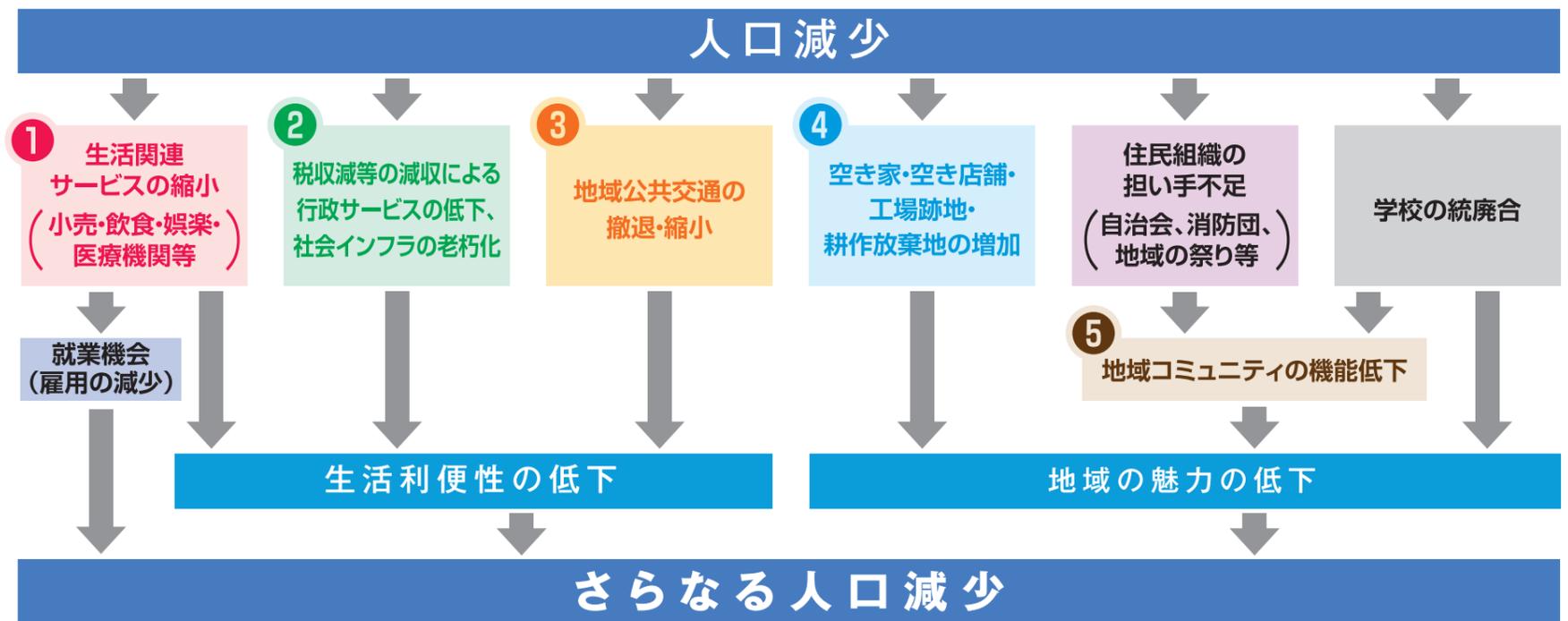


## 「答弁要約」

新潟県が、子育てしやすい、暮らしやすい、学びやすい、働きやすい、総合的に魅力ある地とすることが基本。県政のあらゆる分野での取り組みを総動員していく必要がある。また、市町村との連携・協働や近隣県との連携にも取り組む。



## 人口減少の悪循環のイメージ図



※地域の特性によって起こり得る影響やその程度は異なるため、全ての地域で図のような流れが当てはまるわけではありません。しかし、人口減少を漠然とした危機意識ではなく、**自らが居住する地域でも起こり得る身近な問題**として認識を共有することが大切です。その上で、**地域全体として人口減少がもたらす問題に立ち向っていく必要があります。**

### 1 生活関連サービスの縮小

私たちが日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模の上に成り立っています。例えば、ある市町村に一般病院1箇所がほぼ安定して存続していくためには、統計上3万人近くの人口が必要です。サービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを手に入れることが困難になり、日々の生活が不便になるおそれがあります。

### 2 税収減による行政サービス水準の低下

人口減少とそれともなう経済・産業活動の縮小によって、地方自治体の税収入は減少します。その一方で、高齢化の進行から社会保障費の増加により、財政はますます厳しさを増していきます。こうした状況が続くと、それまでに受けられていた行政サービスが廃止され有料化という場合も考えられます。結果として生活利便性が低下することになります。

人口減少が地方のまち・生活に与える影響

(国土交通省資料より)



### 地域公共交通の撤退・縮小

人口減少による児童・生徒や生産年齢人口の減少が進めば、通勤通学者が減少し、民間事業者による採算ベースでの輸送サービスは困難となります。他方では、高齢化の進行に伴い、自家

用車を運転できない高齢者の移動手段として、公共交通の重要性は増大しており、地域公共交通の衰退が地域の生活に与える影響は従前より大きいものとなります。

### 空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地等の増加

人口が減少する一方で、住宅総数は増加しており、全国的に空き家数は増加しています。また、地域の経済・産業活動の縮小や後継者不足によって、空き店舗、耕作放

棄地も増加しています。地域の景観の悪化、治安の悪化、倒壊や火災発生といった防災上の問題等が発生し、地域の魅力低下につながってまいります。

### 地域コミュニティの機能低下

人口減少は、地域コミュニティの機能の低下に与える影響も大です。町内会や自治会と行った住民組織の担い手が不足し共助機能が低下します。地域住民によって構成される消防団の団員数の減少は、地域の防災力を低下させる懸念があります。また、児童・生徒数の減少が進み、学級数の減少、クラス

の少人数化が予想され、学校の統廃合という事態も起こります。こうした若年層の減少は、地域の歴史や伝統文化の継承を困難にし、地域の祭りのような伝統行事が継続できないおそれもあります。これらによって、住民同士の交流の機会が減少し、地域のにぎわいや愛着も失われていきます。

# 全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

## 阿賀野市の人口推移の実態

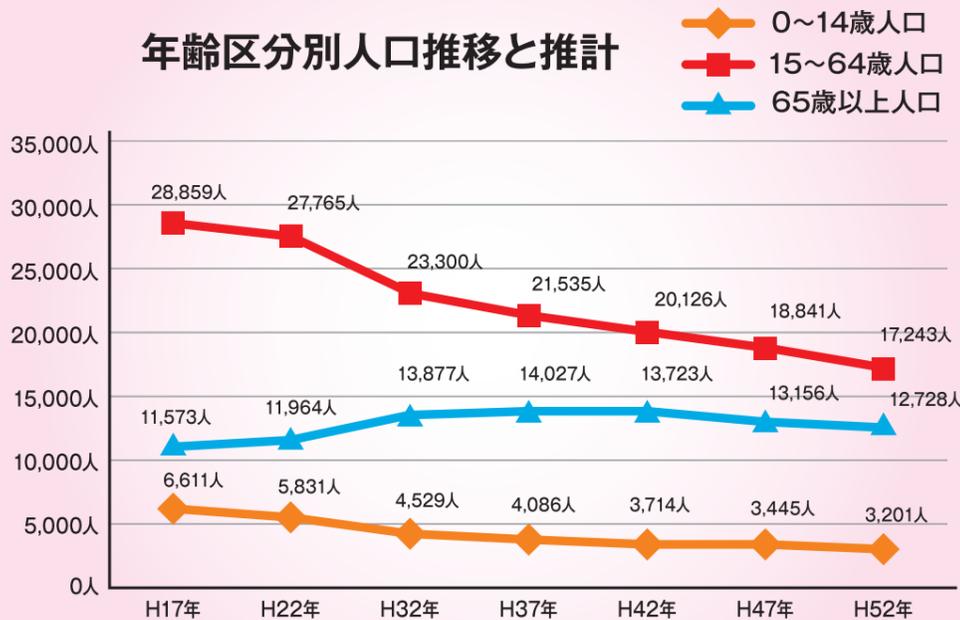
阿賀野市の人口は、平成7年以降は減少傾向となり、社会人口（転入転出）及び自然人口（出生・死亡）共にマイナスとなり、社会人口は毎年100～200人の減少で推移しています。 ・阿賀野市の人口（H29.6.1現在） 43,389人・世帯数 14,253世帯



#### 人口総数の推移と推計



#### 年齢区分別人口推移と推計



### 地方創世の原点は意識の共有

2014年、「日本創世会議」がまとめた報告書が全国の自治体に衝撃を与えました。1800ある自治体の約半数の896市町村が「消滅可能性都市」と発表されたのです。新潟県では18市町村で、阿賀野市は外れていますが、運命共同体でしょう。日本は少子高齢化が進み、その行く末は多難と

思っている、なかなか実感できません。が、さすがに自分たちが住んでいる地域が「消える」と名指しされては、大ショックです。ならばどうするか？今更、産めよ増やせよと叫んでも、後の祭り。数が減るのを止められないのであれば、1人ひとりの質を高めるしかありません。肝心なのは、各々が意識を高め、自主自立の精神で連携社会を目指す。これこそ「地方創世」「地域活性」の原点だと思います。

**阿賀野市が元気になる、提案・意見をお寄せ下さい。**

次回テーマは「**地場産業の活性**」です。特定の思想・主義の主張や、他者への非難や批判ではなく、あくまでも建設的な内容に限ります。文字数は400字以内です。

**ほかりけんじ事務所**  
〒959-2221 阿賀野市保田 737-2  
TEL:68-5441 FAX:68-5515  
Mail:kenji@hokaken.jp